

1	CAS 番号 : 381-73-7	物質名 : ジフルオロ酢酸
---	-------------------	---------------

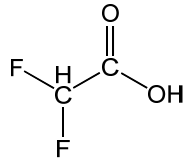
化審法官報公示整理番号 :

化管法政令番号 :

分子式 : C₂H₂F₂O₂

構造式 :

分子量 : 96.03



1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 1×10⁶ mg/L (37°C) で、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 0.60097 (37°C) (pH=2.03)、蒸気圧は 1.17×10³ Pa (25°C) (計算値) である。生物分解性 (好氣的分解) の情報及び、加水分解性の情報は得られなかった。

本物質の主な用途は、試薬である。また、本物質の生産量・輸入量等の情報は得られなかった。

2. 曝露評価

本物質は化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壌に等量排出された場合、水域に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域、海水域ともに 0.00032 µg/L 未満程度となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類等では緑藻類 *Raphidocelis subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 101,000 µg/L 超、甲殻類等ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 100,000 µg/L 超、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC₅₀ 100,000 µg/L 超が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 1,000 µg/L 超が得られた。

慢性毒性値は、藻類等では緑藻類 *R. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 18.9 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 0.18 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類等の慢性毒性値から得られた 0.18 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域及び海水域ともに 0.002 未満であった。したがって、生態リスクの判定としては、本物質について現時点では作業の必要はないと考えられた。総合的な判定も同様とした。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	総合的な判定
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類等 緑藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	0.18	淡水	<0.00032	<0.002	○
					海水	<0.00032	<0.002	

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では更なる作業の必要性は低い	○

[リスクの判定] ○ : 現時点では更なる作業の必要性は低い、▲ : 更なる関連情報の収集に努める必要がある、

■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない。